学校名	贅川小学校		
ホームページURL	児童・生徒数	35名	
(1) テーマ 児童会平成12年度スローガン 『全員参加、みんなの輝く笑顔』 テーマの分類() 下記の欄外記載事項を参照してください。	(2) 活動の単位に をつけてください 学級・同一学年・3～4年 5～6年・学校・ その他() 該当学年 年 (回答可能な場合)		
(3) 活動のねらい 全校児童に支持を受けた集会(プール集会・山は楽しいよ集会)を全校児童の参加によって準備し、地域のその道に詳しい人の支援を受けて自然に親しみ体験することを通して、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協力的に取り組む力を育てる。			
(4) 活動の実際(活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) 活動内容・・・素材(牛乳パック・ペットボトル・アルミ缶)を組んでの船作り きのこの見分け方・びく作り・きのこ狩り・(きのこ汁作り) 学習方法・・・全校を縦割り6班に編成し、グループごとにアイデアを出し、船を組み立てる。下級生をリードしながら山に入る。 時数(年間30時間)			
(5) 指導体制(校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) 全校を縦割りの6グループに分け、それぞれのグループに二人ずつの校長以下全教師が入り、安全面から、また、その子に応じた対応をできるように支援。 さらに、きのこ狩り集会では、地域人材として、きのこ名人(その名人を通して県林業センターの主事先生を招聘) びく作り名人(地域の子ども会を通して) (きのこ狩り当日)保護者多数			
(6) 指導上の留意点(時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) 本校では今年度の移行期間の試みの一つとして、総合的学習の時間(全50時間)を想定し、小規模校という特色と、前年までの児童会活動を生かすことから、全校での活動を模索した。それを児童会総合という時間として、年間30時間の枠を設けた。家庭・地域との連携では、きのこ狩り集会では、その時間を地域の子ども会と共催の形を取り、子ども会会長・名人他多数のご協力を受けて実施した。			
(7) 評価(基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) そのまま課題として(8)に残したい面も大きい。試案として以下のように考えた。 生かされた個性(その子らしさ)・取り組みを通しての進歩を基本的な考え方に、職員間で話題にし、まとめの時にカードに記入した。 カードの内容 ・一番楽しかったこと ・一番がんばれたこと ・集会の楽しみ方			
(8) 成果と課題 自分たちの児童会という意識のもとに、前向きに児童会活動に関わる姿が見られた。異年齢間での活動を通して、上級生が下級生を支えながらリードし、学校全体が縦に結びつく気持ちが強くなった。 プール集会では、素材の関係から環境教育的な視点も育まれた。 きのこ狩り集会では、山に囲まれた贅川の子としての自覚を高め、地域を知る一助となった。 地域の子ども会との連携は授業日に運営するのに無理がある。 評価の仕方			

テーマの分類 横断的・総合的な課題(-ア 国際理解 -イ 情報 -ウ 環境
-エ 福祉・健康 -オ その他) 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や学校の特色に応じた課題